丹鶴叢書

萬代和歌集 十九 二十

117
105
2

東京圖書館

和書門	叢書類	函	二架	二號	一〇五冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京帝国大学図書館

萬代和歌集卷第十九

雜哥六

故柳原燈楚納本

柳原家蔵

二十首

後鳥羽院御製

続後撰雜中題不知

[illegible]

長谷[illegible]

[illegible]

保イ本続後

[illegible]仁四年院[illegible]

続後撰雜中

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

徒古 建保四年ごろ
ちうしるる百そくうち

玉 恋のうちの中ふ

徒古今雑下

慈法大僧正

[illegible]

軒恒

玉葉恋四

和泉式部

一本下之和泉式ア哥在此次

[illegible]

本院侍従

玉葉恋五

[illegible]

お摸

[illegible]

一本此哥在上之和泉式ア哥次

[illegible]

[illegible]

新拾遺雑中

[illegible]

四条法皇

新後拾遺雑下

[illegible]

信西入道

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉恋三

玉葉雑五

玉葉雑五

玉葉恋三

玉葉恋三

玉葉雜五

[illegible]

百首歌中

さうみ

続千載雜中 題不知

[illegible]

つのさはしのこまたちのあるのさまにぬるゝとも

きく

大納言胡光

新千載雜中

[illegible]

前大僧正增基園城寺長吏

[illegible]

続後撰雜中

[illegible]

前大僧正隆明

[illegible]

[illegible]

前大僧正增基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続後撰雜中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続後述懐のこと

（十三首）

続後撰雑中

中原師季卿

世中のうきにくらるる身の秋をいかなる時ぞ思ひ知るらん

藤原顕綱卿

身のうきの思ひもさらぬ世の中に思ひ知るらんやうきとは

前大納言

うきを身に思ひ入るのはさもあるとは思ひ知るらんやうきとは

源師光

さらでだに思ひかねぬる秋の夜に思ひ知るらんやうきとは

新後撰雑中

法橋顕信

世をもうしとうきにうかれぬる身にとは思ひ知るらんやうきとは

後法性寺入道前関白右大臣の歌の中に

後恵法師

いとをもて数ふるものは世をしらぬ人の涙の玉にぞ

述懐のこころ

鴨長明

なるをしといとむ人の世のなかにいかでかはまの月を見ん

下野

続古今雑下後鳥羽院下野

いまもうきとうきとおぼゆるとは（とうハ続古）昔ハとくも人のうきかな

正三位知実

続後撰雑中

一きはもふ山の完はるんやふあらハう秋の夜平（と続後）あるらさらまし

続後撰雑中

さてもはかなの世やなの一しほさこめぬ身はなりけれ

源有長朝臣

後法性寺入道前関白右大臣の所の歌合に

藤原資実

はるまてはたのみそはてはかなしやはちそいはしめ身をとは

後二位家隆

続古今雑中

くもとはるかなくさはあまのこのしまのこのしまのこのしまの

刑部卿藤原

身のうさはかなの世をはてはてはいはるつのむらかん

尚侍家中納言

続後撰雑中

後の世をとはかりにもつとめかくもつるもむらいの高徳

和泉式部

世中にはかなきものはなかるるなとはかりとはかりとはやみなんあるとは

西宮左大臣

続古今雑中

なにとはなくはかなきものとはなるなとはかりとはかりとはやみなんあるとは

後法性寺入道前関白右大臣の歌合に

宜秋門院丹後

玉葉雑五

はかなくはかなくはかりとはかりとはかりと

続後撰雑中

くれてたるあめむるまつの枝ちかくなるかぜもなつかしのころと　僧正行尊

述懐のうた　藤原秀能

あはれなのあるてはあるまいはなほなつかしきもうまれてはいつこしかぬ

世をそむきはてぬ

限あるとてはいまはなほなつかしきもうまれてはいつこしかぬ

清サ納言

続古今恋五

ちかひしいくたのあはれをふかくとあはれのあ

荷中納言光

建保四年院御百首

参議雅経

ふるくるまはかはるあるたかはるはのあはれ

後鳥羽院御歌

新千載雑中

ともかくもつるまつかなほしのあはれ

道命法師

仁和寺八宮二品親王家五十首

述懐

法眼禅性

数なくてあるこしくとたとへはもあるこの

西行法師

家さうを拾ひて人やまさまあるを法ゝ寺てこのもの

前太政上人

こえもしの月をとゝ山と云ひはまをあるわくらゐし

蓮生法師

徒後 述懐のこと

新後拾遺恋二

後の世をとゝ祈ふをとゝ云ひぬたのゝ中へ人もあるゝ

法縁院の宮ゝ

信実朝臣

徒後誤雑中

数あるてをとゝ人をたゝ分たなるさけの八月をとゝ祈まし

陸月のまさるゝ人のとゝ思ひ侍るをとゝ

蓮京光俊朝臣

同雑中

法ゝもしをとゝ文ゝあるゝ法ゝ八月をとゝ思ひ侍ゝ法ゝ

述懐の事ゝ

中原師季朝臣

昔ゝをとゝ思ひ出ゝ侍ゝ法ゝ八月をとゝ思ひ侍ゝ法ゝ

前毎ゝとゝ世をつゝる菩の捨ゝ法ゝ侍ゝ法ゝ八月をとゝ

源仲正

引人もなゝゝ世をつゝる業まゝ世ゝ法ゝ八月をとゝ

因地法師

をゝゝ世ゝ法ゝ八月をとゝ侍ゝ法ゝ八月をとゝ

（いろはも一本）

仁和寺八宮二品親王家五十首 述懐と新後

寂蓮法師

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

新後撰雜中

しらしこのいとふさくてとゝをあまとをとゝ
ゝ
世とのをとゝはくのをとゝまをてかゝる

法とめけをて　春澤宗頼

をとゝもをやをとゝいつゝをとゝをゝをとゝ
ゝ
ゝ

　　女真如

ゝをなるをのをたゝゝゝ法をとゝ
ゝたのめぬをとゝもをとゝまをて

偶偶をかをとゝもをゝる

　　能因法師

いつゝもをとゝめをとゝ也をとゝ
ゝ
をいゝゝをとゝ

　　西行法師

あをとゝをとゝをとゝをのをとゝをゝをとゝ
ゝ
ゝ

　　小雜

をとゝ
ゝ
ゝ

続後撰雑中

[illegible]

おもかげを　三品親王　雅成

新千載雑下

夏の夜をとぢこめてとおもふとの[illegible]

曉更遠鶏[illegible]

[illegible]　前関白左大臣

曉恋情を　従三位行能

あふぎの[illegible]

暮殿[illegible]

[illegible]　同上

[illegible]　続後

[illegible]　同上

[illegible]　住吉社[illegible]十

藤原[illegible]氏[illegible]

続古　恋情のこと

続後拾遺雑中

[illegible]

[illegible]　恋の中ふ

[illegible]　教法師

[illegible]

[illegible]　法印良忠

[illegible]

[illegible]　浄光上人

[illegible]

[illegible]　貞慶上人

続古今雑中

[illegible]　続古

[illegible]　西行法師

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　ガラス使用

玉葉恋三

名のみたえぬとうらみてもとはぬ人をもうらむる

土御門院内裏

続古今雑下

うきをしるこのかたとてこそ生れあはれめてもうらめぬるかな

仁和寺入道二品親王守覚家五十首

正二位季経

はるかにあはれをかけるこころをもとはぬ人をうらむる

建保四年院内裏

慈信大僧正

ことのはにあらはしてたのむ大きのくるるうらに社神なれ

成尋阿闍梨をさそらむとなりてこそ

続拾遺恋五

成尋法師母

人をうらむる涙の出るものなれやはらはれまつそかなしきる

続後撰雑中

ものいはしらて

八条院内裏歌合

どふしてかなのうきをしるかたをしらはなにとてはぬしるる

鷹司院按察

憂きをとはしるとてもあるかなとも涙のもつるものなる我身か

土御門院内裏

続拾遺恋五

山鳥のをろかのみふまれもうきを新たてはなれるる

八條院六条

えにやかくとてるるんまきて流苔ふくをおもひあまるく

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

徒後　前参議中て年
ひさしくもつとめてよろこ
ばるる

皇太后宮大夫俊成女
前中納言定家
徒後摂雑中
たのめてのちあかぬ恨を
仁和寺入道二品親王
あきたつぬ人の心のくるまに
百首の内中ふ
三品親王　雅成
憂きもいまはたゆたふ命かな
秋しらせ
藤原為継朝臣
なつかしみいまはとおもふ秋の月
ハもとあるいのちなりけり

徒後　恋情のこと

お大納言
五十首の内中ふ
徒後摂雑中
仁和寺入道二品親王　守覚
ハ徒後
はるのよもすがらなるこゑのたえぬるを
法橋顕昭
たちうきの葉を人まつ
大家とおもひたてて
僧正行尊
はるのよのあけぬるこゑのたえぬれば
洞院摂政家五首
花ゆゑにこころ
西園寺入道太政大臣

やゝにとゝのひてゝゝまるゝ月とゝのゝたゝんあゝ

そのゝみのゝうかゝゝゝのゝさゝゝゝゝのゝゝゝゝ

徒後　後西大寺左大臣
西行法師ふとともなひく大原ふかくわけて
るるゝ来迎院みくに

風雑のうちの中ふ

徒拾　堀河院御百首
このたびのくくこと

徒後撰雑中

元後お一情をこと
緣忠上人　徒後忍イ一本
このたふ新こふきくこゝ
住吉おのゝ志情を
清輔朝臣
ゝさゝゝやつゝこゝ
後法性寺入道前太政大臣の御のこゝ
藤原資隆朝臣
風雅雑下
朔あふこゝとゝ
基俊

徒拾遺雑中
ちらくのかゝくこゝふまゝ
祐盛法師
徒古今雑下
セナとゝきつゝふ
徒古　ふもゝとあさゝ
経衡
法印清成
世中ふあるあさのゝ
前大納言家の家のこゝ
法印幸清
世中ふあるとのゝ
七条院権大夫

徒古　老後述懐
るゝこと

徒古今長

よみ申あるをのこどもいとふかきをりとはいはんよみもてゆくらん

あくはてをかきふもあさめ哭申をいとさきをもかるん

哭申とはるむあとをかるをうきをもかはさかるをはん

おろかなるこのやふまをひつらはせるめる秋多少おも

結因法師

をむかをもをむこのをとめををこのふかをを堂をはハ

前律師永親

徒古今雜下

よろつををかをもあをふるを

徒古今雜下

慶政上人

玉 梵網經序莫以空過徒設疲勞後代

深悔

玉葉釈

あををるををあをあをを月日をあををとをいををををををををを文をををつ

民部卿典侍

うをををまををのをを社ハををる哭申ををあををををををををををををん

千載雜歌

後京極摂政太政大臣

月のをあををるをあををのををををををををををををををををををををををををを

嘉陽門院越前

徒古今雜下

ををををををををををををををををををををををををををををををををををををを

恋情のをををを

暁長明

玉葉雜五

あををハををををををををををををををををををををををををををををををををを

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

玉葉雜五

いつみしきぬ

西宮前左大臣

前太政大臣

続古今雜下入道前太政大臣

続拾遺雜中

藤原基平朝臣

法京良印

続拾遺述懐のこころの中

常磐井入道

前太政大臣

続後撰雜中

諸本

前大納言忠良

仁和寺入道二品親王守覚家五十首ノ

御中納言定家

かくのごとく怪きてつるきぶほとうまれんものはてさぶ
洞院摂政家百首（あふぎ帳のこと玉）　従二位家隆

玉葉雑五
おもふ我ゆゑもたえぬ世をすてる身といふ歌
鳥羽院御出家のいまもとく法住る　西行法師

同雑五
とまりもとも惜まぬ世をすてる身とは思ひ
世をのがれむとくのこころ法をとて
をんなふたりして　源時明朝臣
詠ずる歌とつたへる玉匣あけこそめとうたふも

かのことを思ひ出きんとくめむの玉こころ
とはたらくおろかをはなれてきむしつるをと
乙

東三条院

ときとるあとをおもふる玉くけ我をみをとる菊
花のつゆ　従三位清進女（近イ本）

姫ぎみおもふ法をもあまるかくも也
殷富門院新中納言世とのことをもいと
つたへる　前大納言九良

玉葉雑五
思へともさとりふかとて捨やすて人の名ばかりとてはかま
返し　殷富門院新中納言

めさのる袖ハ海を憂陸とんのうとまもるまうハ
光俊卿を出家しく侍る後いを書る
攝政太政大臣
玉葉雜五岡屋入道前攝政太政大臣
うれかるるをめしすまるる世中ふこひとりみ（る玉）えてをきて
をとはのをとく侍よえんる
皇太后宮大夫俊成
続後撰雜中
くもゐのやまをををめぐりこい侍てけ世をををを
述懷のうた
小侍從
続古今雜下
をもをををををいつるをのうををををかををを海の袖
宣陽門院大弐

続後　述懷のうた
続古　出家のうちよりうたる
続古　山家のうた

ををのをの袖をををををを

続拾遺雑中

[illegible]

浄覚上人

慈信大僧正

むさぼるこのとをもひしらでいたづらに

[illegible]

法印良印

思へとも[illegible]

九条内大臣

人の為とかねてもいとはるるなるこころ[illegible]

続後撰雑下

三品親王　雅成

[illegible]

続後拾遺雑下

[illegible]

前関白左大臣

日吉社三十[illegible]

藤原光成卿

続後撰雑下

[illegible]

禅寂上人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大僧都覚雄

玉 懐旧のこと

憂愁のあまりに世をそむきて苔なる袖と

法眼頭縁

思ひもあへぬ涙を袖にしぼりかねて

二条院参の内侍

玉葉雑五

おもひいづる昔はまくらかたくまつることをきゝもとゝいはせん

三條八宮たゝ

何ゆゑにかくまでなりぬ苔の下にかくれぬ

仙洞御歌

かくるゝをあはれとおもふ人なきに苔の下にかくれぬ

後京極摂政

懐旧のこゝろをよめる

思ひのまゝに人いるまのつゆ

藤原成宗

おなじくを

源光行

続後拾遺雑下題不知

ふるさとをかなしみ人をとゝのへて

西行法師

行末もむすびとゝめ八本

中納言経忠

ゆくすゑ

いつかぬぎ捨てし古を思ひ出る袖のあめ

法師となりてをかなしみ

苔とはなくもあるかなるこの

新続古　永暦二年ニ

玉葉　永保二年四月清涼殿ノくゝえく

萬代和歌集卷第二十

賀哥

永暦二年中殿哥合のこと

前中納言匡房

新続古今神

八百よろづよとぞ神のいはふらむ
永保六年百人根合のこと

同賀

権中納言経家

千の原めぐる月日のさやけさも
久敷世月をとゝまるとをもひけり

新続古今本

白河院御製

玉葉賀

[illegible]

[illegible]

太宰権帥経信

圓融院[illegible]子日の又はあふことのとの

[illegible]

一品資子内親王

万葉[illegible]

[illegible]

東三條入道関白摂政太政大臣

[illegible]

玉 後一位源倫子六十賀し侍るときの后宮の行啓[illegible]

[illegible]

同歌流行歌

後一条院生誕の日の御[illegible]

法成寺入道前摂政太政大臣

[illegible]

続古今賀

[illegible]

紫式部

続拾遺賀 題不知

[illegible]

従一位源倫子六十賀の日[illegible]

二条[illegible]太政大臣

玉葉賀

[illegible]

同賀

[illegible]

祝のこゝろをよみ侍る

摂家使別当

新後拾遺賀題不知

君[illegible]

兼保（久二年）三年四月白女の九十賀

後二条摂政内大臣

[illegible]

松作千年友[illegible]

続後 右近大将定国四十賀の屏風ふ

[illegible]

大宰権帥経信

[illegible]

素性法師

続後撰賀

[illegible]

[illegible]

新千載賀

[illegible]

小辯

続千載賀

[illegible]

堀河院御代[illegible]

祐子内親王家紀伊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

[illegible]

花園左大臣家小大臣

[illegible]

四條太宮（新後古）大后宮扇合

後頼朝卿

新後古今秋上

[illegible]

長兼元年内裏十五首歌

贈左大臣 附伝

[illegible]

[illegible]

新千 京極前宮内太政大臣家百合

[illegible]

後二位家隆

[illegible]

宴ホ同上

[illegible]

参議雅経

後古今賀

[illegible]

[illegible]

藤原顕綱卿

新千載賀

[illegible]

[illegible]

後後拾遺賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

続後拾　堀河院位ホ
のとのこもり祝のうを
つかまつるふるまひ
付くる

堀河院御祝のうを

俊彩卿

続後拾遺賀

千くさもみなとともとり　続後拾

數多大和まれうたうたれも

元久二年新古今集竟宴

従二位家隆

新後拾遺賀

君をこそかけてそたのむ玉藻もこそ出るあしたの浦風

左大臣

あくまで緑ときはなる

大蔵卿為長

ゆ鳥はかもの羽をのかへ弗の雲のまとをしらぬ波

建仁三年十一月和歌所にて太后宮大

大後拾九十賀　根杖の年の

ちふのきつくる歌　大納言家

続後撰賀

ちとせのはてをつかはせ　中院入道右大臣

祝のうを

七月の菊の露川みなかみ　の一本

東保三年大井河の畔のつくまつる

家　前中納言匡房

続古今賀

大井川のもとにてちとせをいはふ　の続古

中納言家成の家にて今日祝と

民部卿顕彰

君をいはふ千とせのあるべきかたしんぶまをてどうん
後法性寺入道前太政大臣
よみ人しらず
前中納言光雅
きみをいはふ千とせの神もうけてむ
前右大臣
太宰大弐重家
川のゑ一本
徳
続千載賀
人のかずにおもはるるとしをいはふ
きみをいはふ千とせのあるべきかたし

新千 ある所ふひとりこと
ゝそすろふ子日しゝと
るゝを汲ふゝゝて
侍る

新千載賀 ゆく末のひのゝゝそと 新千
ゝゝもむしてのるとかゝゝ
祝のゝゝを
法性寺入道前太政大臣
続千載賀 題不知
ゝゝ天の位のゆしるゝをハ
洞院摂政前太政大臣
ゆゝゝのなゝをゝゝゝまゝ
島鶴ゝゝゝと
洞院摂政家右大臣
ゆめまゝ小ゝゝゝ一本
前中納言定家

続古今賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大僧正覚慶の八十かゝる時よめる

智静大僧正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続古今賀

[illegible]

美濃[illegible]神[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉　後嵯峨院ノ
ヱ　後花山院入道
前右大臣

続古　宝治元年九月
ヱ

続千載賀
[illegible]
八月十五夜ノ月幷多秋
権大納言定雅

玉葉賀
[illegible]
十[illegible]歌合ノ社頭祝
右近中将師継

続古今神
神風やいせ川の深の宮ごころの浪のおとそのとさ
中院入道右大臣家の合ノ
後彩紅葉
（ケ本）
[illegible]

玉　小一条左大臣五
十賀屏風の[illegible]
人の[illegible]

新千　堀河院位ノ
[illegible]
理大夫家保ヲ[illegible]
[illegible]

皇后宮大夫俊実の家の合ノ祝ト
言階長仲
屏風ノ人の家ニ[illegible]
右大将実綱母

玉葉賀
[illegible]
参議家保をさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
周防内侍

新千載賀
[illegible]

上西門院兵衛

宇治入道太政大臣の譽日よみ侍る

法性寺入道前太政大臣

桜花

前大納言光朝

春一本

洞院摂政家百首歌

徒古今賀

六帖題のまゝ

前大納言為家

春日社に合

ト部兼直宿禰

後法性寺入道前関白右大臣の時の百首に

源仲綱 四一本

天禄九年大嘗会惣紀方近江国稲春の事

お中納言定家

秋は島神のとゝまるゆゑ君一つふく民もやすらし

玉葉賀

よろしひとらん

八玉

あふさかる新日嗣のみよろこの光ふ

天禄風

安和元年大嘗会悠紀方　屏風哥同上　せきのもりとある同上　江侍従屏風

平　兼茂

風雅賀

うつさ抱ふくなつる東絹の世の長橋書もらす行

長和元年大嘗会主基方伊中宗江屏風

善淵為政朝臣

うつさ抱ふくなつる東絹の世の長橋書もらす行

寛元九年大嘗会主基方備中宗江屏風

騎参議義忠

のとなる元のひかりいまさの山四つ子ふ紅葉

元仁元年大嘗会主基方丹波国宗屏風

藤原正家朝臣

うるはしの山のふもとに里あるは人住ふ稲の数もしるし

保安四年大嘗会主基方伊中宗屏風

藤原行業朝臣

千つの秋のこもりの山のもみちもいまは木ぬ葉まちん

康治元年大嘗会悠紀方江国宗屏風

藤原為忠朝臣

和ら世ふなるこ和ら山ふ二ふ年あるふ山ふ木ふ葉生のもるを

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

[illegible]

久壽二年大嘗会悠紀方を江忠房風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

已下奥書一本无

寶治二年夏比撰定了暮秋
被添削者也抑　清製任
先例雖奉入依邪臣謗奏推
以被切出可否未辨（本ノマヽ）ゐ
委詑（本ノマヽ）而無由〻〻〻〻
浅香山斗藪仍釋判

右萬代和歌集全部六冊者寛文十一
年癸亥三月中旬筆取同五月十日令書
寫後日校合畢雖然写本甚〻不審
之事亦多之就中奥書之文字不分
明重而以證本可令校合矣

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

右萬代和歌集以七本令對校了

丹鶴叢書目録

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院蔵

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野蔵

春記三卷　同裏文書

右原本中山備前守信守朝臣蔵

九條右大臣集一卷

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

御堂関白集一巻
右二部原本丹鶴書院蔵
藤原家経朝臣集一巻
右原本仲田顯忠蔵
和泉式部續集二巻
右原本井上文雄蔵
源重之女集一巻
小侍従集一巻
殷富門院大輔集一巻
右三部原本仲田顯忠蔵

風俗津連奈幾物語一巻
右原本新見伊賀守正路朝臣蔵
已上揔十二部十五巻或分或合為十一本
戊申帙
釋奠供物圖一巻
諸陵雜事注文一巻
雜筆要集一巻
右三部原本村田春野蔵
春記十一巻

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

右原本松平越中守定猷朝臣蔵
室町殿春日詣記一卷
右原本村田春野蔵
拵弓藤割次第一卷
諸鞍日記一卷
九條家車圖一卷
西園寺家車圖一卷
右四部原本田口千頴蔵
萬代和歌集二十卷
前参議敎長卿集六卷

濱松中納言物語四卷
乙寺縁起一卷
右四部原本丹鶴書院蔵
已上揔十三部五十卷為三十九本
亡酉帙　嗣刻

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

117
105
2

丹鶴叢藏梓

賣弘所
三都書肆

京都三条通升屋町　出雲寺文次郎
大阪心齋橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸芝神明前　岡田屋嘉七
同鍛冶橋五郎兵衛町　中屋徳兵衛

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用